

## 【 4 年（読むこと）】

興味を持ったところを中心に要約し、「紹介カード」を作って紹介しよう（「ウナギのなぞを追って」）

指導者 木下 晃司（あさぎり町立上小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

### 学びの土台

これまで：まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、要約する

これから：興味を持ったところを中心に要約する

### 学習課題

調査結果と予想の関係に着目して、調査内容を捉え、興味をもったところをまとめて「紹介カード」を作り紹介しよう。

#### 指導事項

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること

①読むこと（1）ウ

#### 思考操作

調査結果と予想とを関連付ける

### 言語活動

興味を持ったところをまとめて「紹介カード」を作り、紹介しよう

#### <立ち止まって振り返る場>

長年の調査の理由について、「何に注目することでどんなことが分かったのか」というフレームに沿って振り返ることで、興味をもったところにおける中心となる語句について自覚することができるようにする。

#### <考えを表出し比較する場>

子どもたちの意見をロイロノートで共有し、興味を中心を視点としてシンキングツールで分類することで、同じ視点の意見を吟味できるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

興味を中心ごとに、考えの根拠となる言葉や文を吟味し、調査に長い年月がかかった理由に迫っていきけるようにする。根拠や理由の共通点や相違点を考える中で、筆者の努力、予想と結果の連続、順序を追った調査などに気付きながら納得解を生み出せるようにする。

本時

### 本単元で目指す子どもの姿

興味を持った内容の中心となる語や文を選んで要約した文を紹介し合うことで、一人一人の感じ方の違いやそのよさに気づき、多面的に物事を捉えようとする子ども。

## 第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 あさぎり町立上小学校 木下 晃司

- 1 単元名 興味を持ったところを中心に要約し、「紹介カード」を作って紹介しよう  
「ウナギのなぞを追って」(光村図書4年)
- 2 学習課題 筆者の調査と予想の関係に注目して、調査内容を捉え、興味を持ったところをまとめて『紹介カード』を作り紹介しよう。
- [指導事項] 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるようにする。 C読むこと(1)ウ
- [思考操作] 調査結果と予想とを関連付ける。
- [言語活動] 興味をもったところをまとめて『紹介カード』を作り紹介する。

### 3 単元について

#### <教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・教材は筆者の調査報告文となっており、予想をもとに調査が進められ、それをもとに事実が積み重ねられて考察してある。
- ・調査以外にも、ウナギの生態、長年にわたる研究における地道な努力など、多様な要素が含まれている。

以上の特徴から、一人一人の興味をもとに内容をまとめるとともに、それらを紹介し合い互いの感じ方の違いやよさに気付くことができる教材であると言える。80年近く調査に時間がかかったことが子どもの感想から疑問として出てくるのが予想される。その理由を共有し比較していく中で、それぞれの興味の中心が明らかになっていくことが期待される。そのような学びを生み出すために、興味を持ったところをまとめて紹介しようという言語活動を核にした単元を構想する。

#### <児童観>

子どもたちは、これまで4年生の1学期に「要約するとき」の単元で要約の方法を知り、「世界にほこる和紙」でまとまりごとに中心となる語や文を選び、要約する経験をしている。

そのような学習を通して、まとまりごとに中心となる語や文を見つけることは、ほとんどの子どもができるようになってきている。しかし、自分の興味を持ったところの中心となる語や文を確かめて要約できる子どもはまだ少ない。

#### <視点について>

##### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習教材の「思いやりのデザイン」「世界にほこる和紙」において、何のために要約するのか、相手や分量によって要約の仕方がかわることをふり返る。また、興味をもったところをまとめた言語活動モデルを提示し、既習事項との違いから上のような学習活動を設定する。

第二次においては、調査に長い年月がかかった理由について、自らの学習を振り返る場を設定する。その際に「何に注目することで、どんなことが分かったのか」という話型を活用し、興味をもった中心をより明確にしていくことで、学びを自覚できるようにしていく。

##### [視点2] 共に学び続けるための工夫

「中」の調査過程を読み進める際に、調査に長い年月がかかった理由について考えた子どもたちの意見を、「Xチャート」のシンキングツールを使って、「レプトセファルス」「たまご」「調査」など、子どもたちの興味の中心を視点に分類する。視点ごとに分けられた理由を比較し、根拠や理由の相違点や共通点を考えたり、根拠となる叙述の妥当性を検討したりする場を設定する。特に、「調査」の視点では、「ぱったりととれなくなっているのです」などの叙述に注目することで、調査への努力や試行錯誤の過程に気付くことができるようにする。その際、調査結果と予想、さらには資料を関係付けることで、そうした比較検討の場で働かせた「言葉による見方・考え方」を価値づけて、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

#### 4 単元の見通し

- 様子や行動を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 (知・技) (1) オ
- ◎ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 C読 (1) オ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 C読 (1) オ
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 C読 (1) エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、興味をもったところを紹介する文を書いて伝え合おうとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (8時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○ 紹介カードをもとに単元の見通しをもつ。 ○ 教材文を読み初発の感想を書く。	・ 指導者作成の「世界にほこる和紙」の「紹介カード」を提示して、言語活動のイメージをもてるようにする。	
<b>〈学習課題〉</b> 筆者の調査と予想の関係に注目して、調査内容を捉え、興味をもったところをまとめて「紹介カード」を作り紹介しよう。				
	2	○ 感想を出し合うことで、興味を中心に確かめる。 ○ 大まかな文章構成と内容を捉える。	・ 「なぜ調査に80年近くかかったのか」について、子どもたちから出た感想をグルーピングすることで、「興味を中心に」を明らかにし、「中」を読み取っていくための必要感をもてるようにする。	<b>思</b> 初発の感想を共有して、興味をもったところや感じ方などに、違いがあることに気付いている。 [振り返り]
二	3	○ 「中」を読んで、調査の流れを捉える。	・ 「調査結果」と「予想」を関連付けて読んでいくことで、調査の流れを理解することができるようにする。	<b>知</b> 様子や行動を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 [ノート・メモ]
	4 本時	○ 「中」を読み深める。	・ 「なぜ調査に80年近くかかったのか」について、興味を中心に分けて理由を整理することで、興味を中心に明らかにすることができるようにする。	<b>思</b> 文章を読んで理解したことに基づいて、理由や感想をもっている。 [発言・ノート]
	5	○ 興味をもった中心を検討する。	・ 文章構成図を活用することで、興味を中心に選んだ語や文を検討できるようにする。	<b>主</b> 文章を読んで理解したことに基づき、興味をもったところを紹介する文を書こうとしている。[紹介カード]
	6	○ 興味をもったところに沿って大事な言葉や文を書き出し、整理する。	・ 興味を中心に同じ子ども同士でグループを組ませることで、大事な言葉や文を書き出す際に、検討できるようにする。	
	7	○ 興味をもったことに沿って本文を要約し、感想を加えて紹介文を書く。	・ 指導者が作成した紹介カードや前時のノート、ワークシートを活用して、要約できるようにする。	<b>思</b> 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 [紹介カード]
三	8	○ 作った紹介カードを読み合い、感想を伝え合う。	・ 興味を中心に感想、要約の仕方などの違いについて、指導者からも取り上げて紹介することで、視点をもった振り返りへとつなげられるようにする。	<b>思</b> 紹介カードを読んで感じたことなどを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 [振り返り]

## 6 本時の学習（4／8）

### （1）目標

なぜ，調査に80年近くかかったのかを考えることを通して，「中」の調査内容を読み深めることができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
7	1 調査と前時の学習を振り返る。	○前時で調べた調査結果や予想を短冊にし，それらを調査の通りに並べる活動をするこ とで，大まかな調査の内容を振り返ることが できるようにする。  ○なぜ，たまごを産む場所を見つけるのに80 年近くの年月がかかったのかを問いかけるこ とで，調査内容をさらにくわしく読む必要 性をもたせるようにする。	ロイロ ノート
なぜ，調査に80年近くの年月がかかったのかを考えよう。			
30	2 なぜ調査に80年近くの年月がかかったのかを考える。 (1) 一人学びをする。 (2) グループで話し合う。  (3) 全体で話し合う。	○感想を出し合った際に出た「レプトセファルス」「たまご」「塚本さんたちの調査」などの興 味の中心を視点に示すことで，長年の調査の 理由を叙述から考えることができるようにす る。  <b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b> ○子どもたちの意見をロイロノートで共有 し，シンキングツールを使って「レプトセフ ァルス」「たまご」「調査」などの視点で分類 することで，興味を中心ごとに吟味できる ようにする。  <b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</b> ○興味を中心ごとに，考えの根拠となる語句 を吟味し，調査に長い年月がかかった理由 に迫っていけるようにする。根拠や理由の 共通点や相違点を考える中で，筆者の努力， 予想と結果の連続，順序を追った調査など に気づきながら納得解を生み出せるように する。	ロイロ ノート  デジタ ル黒板  拡大した地 図
8	3 本時の学習を振り返り，次時の見直しをもつ。	◆調査に長い年月がかかった理由を捉えて感想 をもっている。[発言・ノート]  <b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b> ○長年の調査の理由について，「何に注目す ることによってどんなことが分かったのか」という フレームに沿って振り返ることで，興味を もったところにおける中心となる語句につ いて自覚することができるようにする。  ○紹介カード作りのための学習計画をもとに本 時の学習を振り返ることで，次の学習の見通 しをもつことができるようにする。	